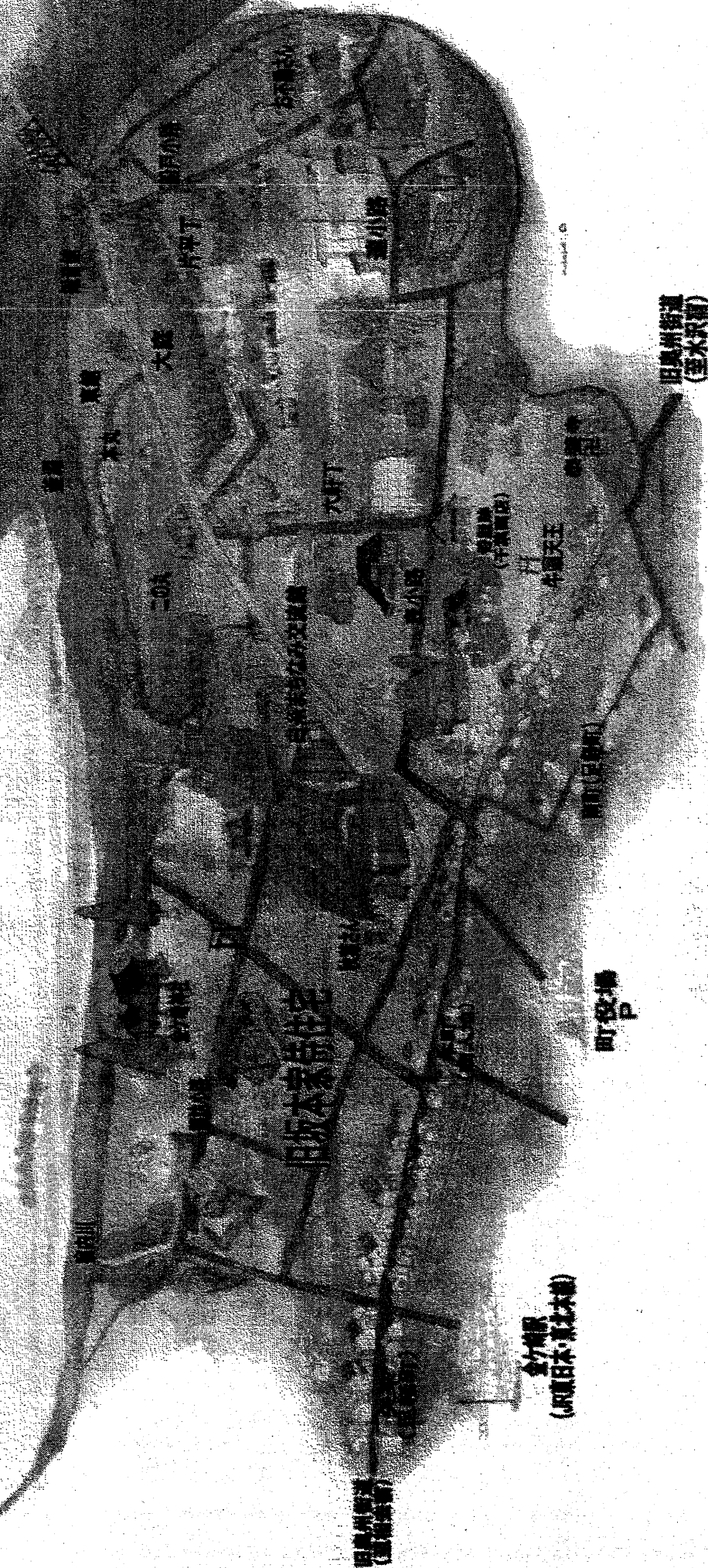


金ヶ崎町城内諏訪小路

重要伝統的建造物群保存地区



藩境の緑ゆたかな要害

旧坂本家侍住宅

金ヶ崎町城内諏訪小路伝統的建造物群保存地区
＜保存物件＞



金ヶ崎町中央生涯教育センター

旧坂本家は、諏訪小路西側にあります。坂本家は仙台藩御預足輕で矢来に住していましたが、文政末年（1830）に大町家臣となり小姓組を勤めました。天保元年（1830）に現在地に拝領しました。屋敷は約560坪です。

1. 屋 敷

諏訪小路、屋敷裏横丁にサワラヒバの生垣が回されています。表間口（諏訪小路側）のやや南にある入口より屋敷に入れば、左手に畑、右手には小路からの生垣が続きます。生垣に沿って進めば、右に折れて主屋玄関に至ります。主屋と前生垣の間に露地庭、主屋と小路の間が主庭となりますが、現在はその姿を留めていません。玄関の前に、玄関庭と思われる樹木の植え込みがあります。主屋の奥は小屋と畑となっており、西側屋敷境はヒバの林があります。

2. 建 物

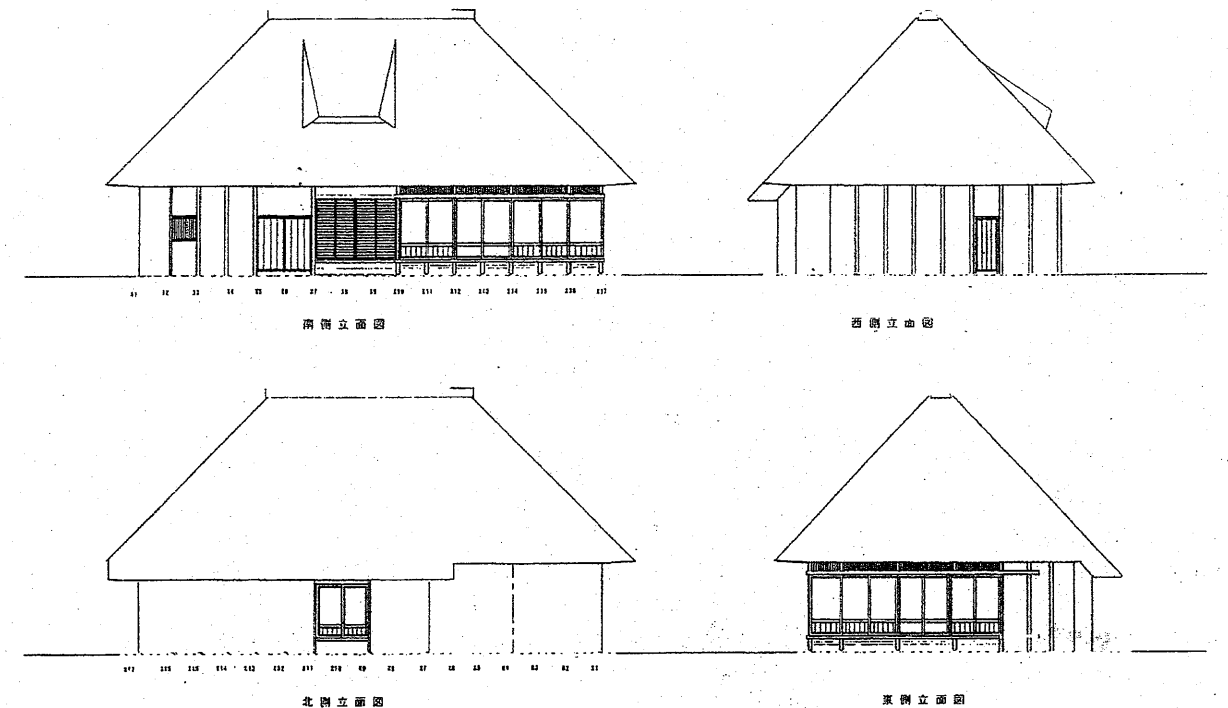
主屋は、桁行8間、梁間4.75間の茅葺き寄棟造り屋根の直ご屋で、石場建てです。小路（東）側に座敷（上位）、西側に土間が配される構成で、座敷の間取りは「喰違い4間取り」です。創建年代は現敷地を大町の殿様からいただいた天保元年（1830）で、江戸時代の侍住宅を今に伝えています。

創建時から現代までの生活にあわせ、建物の改築が行なわれていますが、その変遷について大別すると次のとおりです。

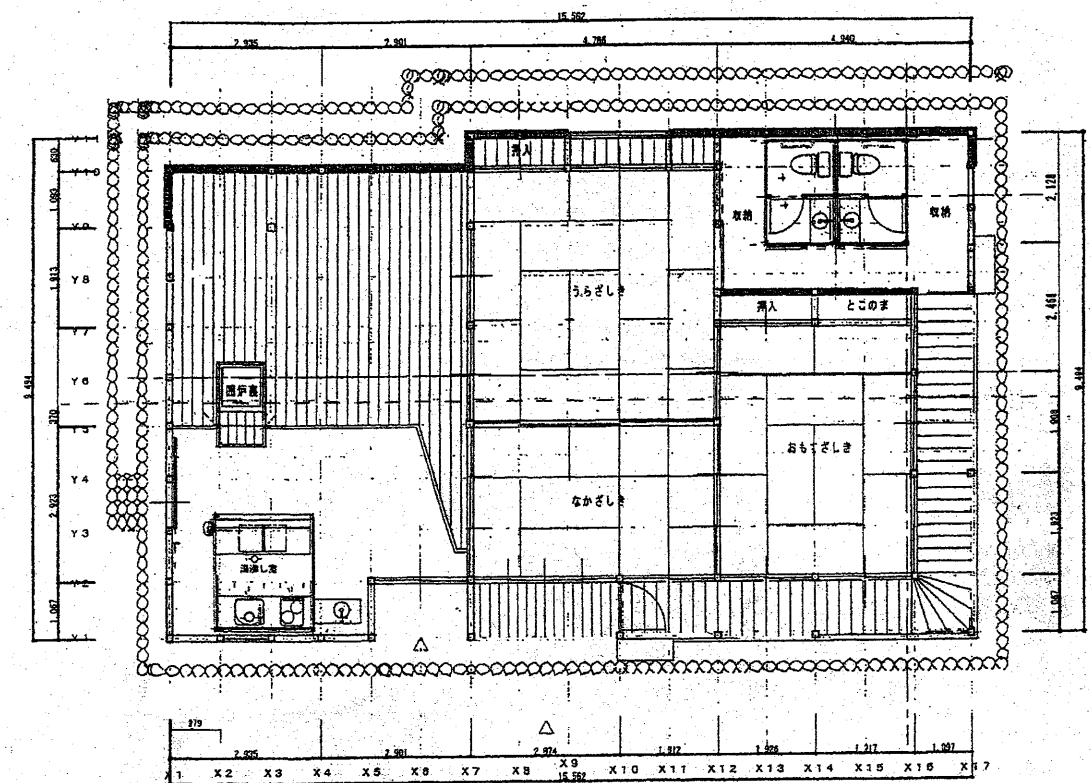
- 第1期……創建当初。天保元年（1830・藩政期）～明治初期頃（1880）
- 第2期……維新後、帰農してからの状態。養蚕を目的として改修が行われた。明治初期（1880）～昭和期（1970）
- 第3期……解体前。現代住宅設備を導入。昭和期～平成21年

3. 復原根拠

- 第1期……全体の外観—寄棟茅葺屋根、土壁、式台、石場建、建具（縁側を除く）。
間取り—喰い違い四間取り。 内装—内壁、畳、建具。
- 第2期……屋根の煙出し。天井。建具。
- 活用管理…厨房。厠。ガラス戸。



主屋 立面図



主屋 平面図